

交通網問題対策等調査特別委員会 会議記録

- 1 期 日 令和 5 年 3 月 22 日 (水)
午前 9 時 25 分 開会
午前 10 時 35 分 閉会
- 2 場 所 第 3 委員会室
- 3 出席委員 委員長 竹中 理
副委員長 小森 弘詞
委員 岡本 昭治、清水 寛、
須山 泰一、前田 敦司、
義本 みどり
- 4 欠席委員 田原 宏二
- 5 説明員 (別紙のとおり)
- 6 傍聴議員 なし
- 7 事務局職員 次長 坂本 英津子
- 8 会議に付した事件 (別紙のとおり)

交通網問題対策等調査特別委員長 竹中 理

交通網問題対策等調査特別委員会 次第

日 時：2023年3月22日(水) 9:30～

場 所：第3委員会室

1 開 会

2 委員長あいさつ

3 協議事項

(1) 委員会所管事項の現況について

【都市整備部】 建設課、都市整備課

(2) 委員会の運営方針について

委員会重点調査事項

(3) その他

4 閉 会

交通網問題対策等調査特別委員会名簿

【委員】

2023年3月22日現在

職名	氏名
委員長	竹中理
副委員長	小森弘詞
委員	岡本昭治
委員	清水寛
委員	須山泰一
委員	田原宏二
委員	前田敦司
委員	義本みどり

【当局】

職名	氏名	職名	氏名
都市整備部長	澤田秀夫	城崎振興局 地域振興課参事	橋本郁夫
建設課長	(欠席) 冨森一靖彦	竹野振興局 地域振興課長	平尾喜彦
都市整備課長	久田涉	日高振興局 地域振興課参事	上野和則
		出石振興局 地域振興課参事	川崎隆
		但東振興局 地域振興課参事	小川一昭

8名

【議会事務局】

職名	氏名
議会事務局次長	坂本英津子

交通網問題対策等調査特別委員会設置要綱

1 設置の目的

豊岡市の基幹交通網の整備をはじめ、市民生活の利便性等を高めるための公共交通機関の諸課題等について調査を行うため、地方自治法第109条及び豊岡市議会委員会条例第5条の規定に基づき、特別委員会を設置する。

2 委員会の名称

交通網問題対策等調査特別委員会

3 委員の定数

8名

4 付議事件

- (1) 北近畿豊岡自動車道、山陰近畿自動車道（鳥取豊岡宮津自動車道）、但馬空港及び鉄道に関する調査研究等
- (2) 路線バス等地域公共交通に関する調査研究等

5 委員会の設置期間

調査完了の時期まで

6 調査の経費

議会費の中で議長の定める額

7 その他

設置期間中、議会の閉会中も継続調査できるものとする。

交通網問題対策等調査特別委員会重点調査事項

2023. 03. 22

1 高規格道路に関する事項

- 北近畿豊岡自動車道の事業推進に関する事
- 山陰近畿自動車道（鳥取豊岡宮津自動車道）の事業推進に関する事

2 但馬空港に関する事項

- 空港の利用促進並びに支援体制に関する事
- 東京直行便の実現に向けた事業推進に関する事

3 路線バス等地域公共交通に関する事項

- 市内公共交通網の充実並びに利用促進に関する事

4 鉄道交通に関する事項

- 鉄道交通の維持・存続並びに利用促進に関する事

午前9時25分開会

○委員長（竹中 理） それでは、ただいまから交通網問題対策等調査特別委員会を開会いたします。

まず、委員長の挨拶ということで、今日朝すごい霧で、もう朝本当に前が見えなかったような状況でありますけれども、今日一日、何かすごくいい天気になるということなので、本来、今日空港のほうに管内視察予定してたんですけど、空港のほうがお忙しいということで、ちょっと行けなかった状況なので、また後で考えたいと思います。

WBCも気になるところでございますけれども、始めたいと思います。

それでは、まず、本日の委員会に当たり、田原宏二委員から欠席届が提出されておりますので、ご了承承願います。

次に、当局から、富森建設課長より欠席する旨の申出がありましたので、ご了承承願います。

それでは、協議事項に入ります。

協議事項に入ります前に、連絡させていただきます。委員会中の発言につきましては、必ず委員長の指名を受けてからマイクを使用して発言いただきますようお願いいたします。また、最初に課名と名字をお願いします。

委員会所管事項の現状についてを議題といたします。

委員の皆さんはSide Books上のフォルダー、交通網問題対策等調査特別委員会2023、3月22日の中に配信しております資料をご覧ください。

それでは、建設課、都市整備課の順で説明をお願いいたします。

はい。

○都市整備部長（澤田 秀夫） おはようございます。

2ページをお開きください。よろしいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）

まず最初に、北近畿豊岡自動車道の事業進捗についてご説明します。

前回12月23日に説明をさせていただきましたので、大きく変わったようなところを中心に説明さ

せていただきます。

まず、この2ページの中の概要及び進捗状況の2、豊岡道路（Ⅱ期）のどこなんですけども、そちらの2022年度、調査、予備設計、用地測量、実施中とこれしてるんですけども、用地測量につきましては完了いたしました。そして、この3月の16日に関係地区であります岩井、奥岩井、それから17日に口岩井、そして20日の日に戸牧、ここの地権者の方を対象に地元説明会のほうを開催しております。何とか23年度には工事着工ができるように、現在調整のほうを行っているところです。

次に、3ページです。3ページの5、その他のところで、現在、北近畿豊岡自動車道の山本地内、日高北インターの南側なんですけども、西側の斜面がずって防災工事のほうが続いてるんですけども、まだ工事につきましては23年度中も続きます。ただ、まだ完成の時期については、国のほうからお聞きはしていないという状況です。道路交通に対しては通行上は何も支障がない状態で工事のほうをされておりますので、早期の完成を待つところというところでございます。

資料としまして、北近畿豊岡自動車道の写真をお送りしてると思うんですけども、そちらを開いていただけますか。よろしいですか。（「はい、大丈夫です」と呼ぶ者あり）

そしたら、豊岡自動車道の進捗状況をこちらのパワーポイントのほうで説明させていただきます。

これは、1枚目の資料につきましては北近畿豊岡自動車道全体を示しております。現在、これ右に春日ジャンクションインターがあって、そこからずっと左側に行って、和田山八鹿、それから豊岡北ジャンクションインターまで、ここまでの間が約73キロありまして、現在、但馬空港インターチェンジのここまでが供用できております。全体としましては、9割が供用開始になっております。そして残り、但馬空港から豊岡インターの2キロ、それから豊岡インターから最終の豊岡北までの5キロ、この分が現在事業中ということで、全線事業化になっているという状況でございます。

次に、2枚目を見てください。これが豊岡道路、先ほど言いましたこの2キロ区間で、現在こちらのほうが工事を進められておいて、令和6年の秋に開通予定ということがもう既に国のほうから発表されております。

3枚目の写真を見ていただきたいと思います。こちらの写真は、但馬空港インター付近から北向きの工事状況を写しております。ちょうど写真の左下のほうに橋台が見えると思いますけど、これよくここを通過して北近畿自動車道に乗られるときに目にされていると思うんですけど、今、既に橋台ができていて、北側についてはトンネルのほうも掘削されているという状況でございます。

4枚目を見てください。これちょうど空港インターと豊岡インターの間付近になるんですけども、左側に（仮称）佐野トンネルの北側の坑口が写ります。それから、右側が（仮称）戸牧トンネルの南側の坑口です。この戸牧トンネルにつきましては、令和3年の7月に貫通しております。現在、図面の左の佐野トンネルのほうを掘削中という状況でございます。

それから、5枚目が、豊岡インターから南側を見ております。ちょうど写真の右上に白い建物が見えると思いますけども、これが豊岡病院になります。ちょうど道路が3本ありますけども、真ん中が本線、それから左側がオフランプ、下りるほうの車線です。右側がオンランプといって乗るほうの車線になって、こういったようなことで、まだ道路としての形はできておりませんが、橋台とか橋梁のほうはほぼほぼできている状況になっております。

それから、最後、6枚目を見てください。これが豊岡インター付近から南側を見た絵です。これ、写真の右上に行きますと、今現在兵庫県のほうが整備されております但馬空港線ということで、但馬空港のほうに行く道になります。それから、写真の左側が豊岡インター線、病院の前を通過して戸辺羅山トンネルに向かう道路になっております。

大体現在、豊岡道路の進捗状況としましたら、このような、今見ていただいたような状況になってお

ります。これといった大きな問題もなく今順調に工事が進んでいるというふうにお聞きしております。

次に、資料から戻って行って4ページをお開きください。よろしいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）

山陰近畿自動車道の事業促進についてご説明します。これも大きく変わった点を中心に説明させていただきます。

概要及び進捗状況の3、豊岡道路なんですけども、一番下に22年度、地質調査実施中と書いてありますけれども、現在、国のほうでいろいろと調査をされておりまして、2月28日に直轄調査結果を兵庫県の方に報告されました。

この報告内容としましたら、まず、ここは非常に長いトンネルがあるんですけども、貫入岩とか断層破碎帯が分布する可能性が高く、トンネルを掘ったときに突発湧水、あるいは切り羽の崩壊が生じる危険性があるということで、トンネル掘削時の突発湧水、切り羽崩壊などが懸念されるということが1点。

それから、トンネルの坑口付近は非常に崩壊した跡が多数見受けられるので、地滑りあるいは岩盤崩壊が懸念されるということがあります。

それから、3点目は、円山川を渡る橋なんですけども、非常に円山川につきましては分厚い軟弱層があって、非常に施工が難しいような高度な技術が要求されます。そういったことから、円山川渡河部の基礎工の設計施工にいろいろと知恵を出さなければならぬということがございます。

そして、4つ目は、二見水源があるんですけども、この二見水源というのは約2,600世帯に配水されているんですけども、その近くをトンネル掘削するというので、二見水源地への影響が懸念される。

これら大きな課題として、トンネル掘削時の突発湧水、切り羽崩壊、それから2つ目にトンネル坑口付近の地滑り、岩盤崩壊、円山川渡河部の基礎工の設計施工、それから4点目に二見水源地への影響、これら非常に技術的課題に留意しながら詳細調査を実施しなければならないということで、非常に高度な技術を活用することにより事業実施が可能となる、こういった内容を国のほうから兵庫県のほう

に報告されました。

それで、国のほうでは、2月の28日に2023年度の予算に向けた新規事業採択時評価手続というものに着手することが発表されました。そして、3月15日には、先ほどの採択時の評価が実施され、有識者の委員会で国による整備については妥当という判断が示されました。それに伴いまして、関連の予算案が国会で成立すれば国による直轄事業が行われるという運びになります。

最後、5ページを見てください。5ページ、7のその他のところなんですけども、今年の1月に国への山陰近畿自動車道の要望を行う予定だったんですけども、非常に、10年に一度の大雪ということで大会のほうは中止になりました。大会は中止になりましたけども、鳥取、兵庫、京都の3府県の協議会のほうから、国会議員の先生方と国交省へは要望書のほうを配付いたしております。

それと、今の山陰近畿の関係で、鳥取県側が3月の12日に浦富から東浜の3.8キロが開通しました。この開通によって兵庫県の新温泉町と鳥取市が高規格道路で直結されたことによって、全体の区間で約4分短縮されるということが、皆さんも新聞でも見ておられると思いますけども、そういった事業効果のほうが出ていると、こういった状況になっております。

今の高規格道路については以上です。

○委員長（竹中 理） どうぞ。

○都市整備課長（久田 渉） 7ページをご覧ください。まず、空港の利用促進と利便性の向上について説明させていただきます。こちらにつきましても、昨年12月の委員会から進捗のある項目を中心に説明をさせていただきます。

まず、1番、大項目の1つ目です。運賃助成や小学生の社会見学支援による利用促進につきまして、全部で6つを上げていますが、この中で、空港運賃助成事業とか小学生の飛行機体験搭乗事業、あと新成人の記念事業とか小学校の社会見学事業などは、この2月末時点の利用人数等、記載のとおりでございます。

その中で、(5)の中学、高校、大学特別支援学校の学生の方への無料航空券の贈呈事業につきましては、12月の15日より実施をしておりますところですが、今回その利用状況について説明をさせていただきます。

対象者は約4,900人に対し、2月末時点の利用者は約2.8%、137人ということになってます。現在は150人以上になってます。今回利用された方は、通常利用ではなく学生の新規利用であることが想像できることから、今後の空港利用のきっかけになればとうれしく思っており、一定の成果が上がっているものと考えております。

なお、今回添付資料としまして、搭乗者数や利用率等が確認できるA3の一覧表を添付しております。ちょっと内容だけ簡単に説明をさせていただきますけども、よろしいでしょうか。字が小さいんですけど。

○委員長（竹中 理） はい。

○都市整備課長（久田 渉） すみません。縦長になってまして、平成6年の開港以来からこの令和4年度まで、29年目になるんですかね。表の中の構成は月別になってまして、それぞれ一番最後に合計欄になってます。先ほど言いました利用者数であるとか利用率、それから伊丹から東京にそのまま乗り継いで行かれる方がどれぐらいあったのかというようなことが書いてます。例えば令和4年度でいきましたら、利用者は2万5,000余り、それから利用率にすると44.1%、就航率というのは、どれぐらい月の中で飛んだかというもので、90%以上で就航しています。一番最後の37.2%ってありますが、東京への乗り継ぎで、3人に1人の方は東京までそのまま行っておられるという状況です。

今年、今回12月と1月が39.2%とか、1月については、32.1%ということなんでなぜか悪いんですけども、3月は、かなり盛り返してまして、今現在で65%になり、全体的な利用率は44%程度ですけど、最終的には46から7%の間ぐらいにならないかなといったようなことで考えております。

続きまして、すみません、資料に戻っていただきまして8ページをご覧ください。よろしいですか。(「はい」と呼ぶ者あり)

バス交通の充実と利用促進についてです。こちらにつきましても、前回から進捗のあった項目のみ説明をさせていただきたいと思います。

大きい項目2つ目の地域の実情に応じた新たな交通モードの検討としまして、アの竹野南地区の公共交通モードの実証運行についてです。

10月から2月末時点での利用者は延べ約400人程度となっています。地元の移動の足として一定の効果は上がってはいるものの、あくまでもこれも実証実験ということであります。この令和5年度中をめどに、地元の方とも協議を重ね、議論をさせていただいて、最終的な交通モードを決定したいと考えているところです。

次に、イの日高地域の福祉モビリティの実証事業についてです。

本事業の今後の予定ですが、4月以降も引き続き現在の福祉Moverを活用しまして実証実験を続けたいと考えておりますが、最終的には現在の仕組みでの課題、それから実験してみることができることやできないことなどを整理ができた時点で、できればこの上半期をめどに実験の一定の区切りをつけていきたいと考えているところです。

それから、大きい項目3つ目の市街地循環バス、コバス、市営バス、イナカー、地域主体交通チクタクの運行支援のイ、市営バス、イナカーにつきましては、これは前回も説明させていただきましたけども、例年のことではありますけども、1月に路線ごとの意見交換会を開催しています。会議の主な内容としては、運行条件に係る事業の報告や、ダイヤ改正がある場合ではその変更点などを説明させていただいて、意見交換を行うものです。

今回、夜開催ということで、皆さん乗っておられる方が参加していただくのがいいんですけども、なかなか難しいということで、今回利用者の方にアンケート形式での意見や感想を集計したものを整理しまして、それを参加者の皆さんへ情報共有をした

ところです。

それから、今回、資料としまして、またコバスとイナカーとチクタクのそれぞれの利用者や年間委託料の資料をつけております。過去3年程度と思っただけですけど、コロナの関係で数字があまりはつきり見えないもんですから、それぞれコバス、イナカー、チクタクとも過去5年間、利用者さんの人数とそれから契約の金額のほうも提示をさせていただいています。これにつきましては、また後でご覧いただけたらと思います。

それから、また、資料に戻っていただきまして、大項目4つ目です。運行事業者、地域と協働したモビリティ・マネジメント及び利用者の確保に向けたイベントの実施ということで、4つ上げております。この中で、イの市の職員の管内移動に係る公共交通利用回数とか、ウのノーマイカーデーの販売枚数は記載のとおりですが、結論としましては、ノーマイカーデーは第4金曜日も追加したことによって、データとしては単純に2倍の効果が出てます。

それから、職員の移動につきましても、240人程度、5月から利用していただいとすることで、一定の成果が出ているものと考えているところです。

それから、最後の資料の10ページをご覧ください。鉄道の利用促進についてです。こちらにつきましても、前回から進捗のあったところを説明させていただきます。

大項目1の利便性向上のための機運醸成と要望活動につきましては、(5)JR西日本の経営改善に伴う路線見直しの方針のアのJRローカル線の維持継続及び利便性向上に係る要望について、若干進展がございました。こちらにつきましては、先月の2月の13日に9名の県会議員の方によるJRローカル線の維持議員連盟という組織を立ち上げられました。これにつきましては、県の知事部局や議会側、それから我々沿線自治体が一丸となって利用促進に取り組み、赤字路線への支援制度の創設等、一緒になって国へ働きかけようということが確認をされたところです。

この2月13日の後、早速ですが、先週3月の15日には知事と、それから今回都合がつかない、議員連盟の方は出席できなかったんですけども、沿線自治体によるローカル線の維持・利用促進検討協議会、合同で国土交通省の鉄道局に、新たなことでJRローカル線の維持に関する要望活動を実施してきたところです。

続きまして、このJRローカル線維持・利用促進検討協議会につきましては、これは先月、2月の1日にはなりますけども、最終の第3回目となる検討協議会が開催をされております。

今後の利用促進の取組方針として、1つ目には路線ごとの取組、2つ目には全県的な取組、それから3つ目には、もうこれで終わるのではなく、引き続き検討協議会や各路線ごとのワーキングチームの体制を継続維持して、次年度以降も協議会等を進めていくというような大きな3つの方針が示されたところです。

本市としましても、こうした検討結果を踏まえ、移動特性やニーズをさらに深掘りをしまして、これまでの利用促進策とは異なった実効性のある利用促進策を地域と協働して実行していくため、区長会やコミュニティなど、議論を行いながら実現可能となった施策から積極的に取り組みたいと考えているところでございます。

説明は以上です。

○委員長（竹中 理） 以上ですね。

それでは、説明は終わりました。

質疑、意見等はございませんでしょうか。

清水委員。

○委員（清水 寛） JRの関係でちょっと1点お聞きします。

JRのほうの方向性としては、観光というところでこの山陰線のほうの利用を促進していくという、その中での稼ぎで生活者を支えていくというようなお話をお聞きしたんですけども、そういう点で今、県のほうでデスティネーションキャンペーンの話が出てたんですけども、その辺の市としての取組状況というか、そういう方向っていうのは、ちょっと

部局が違うので何とをもっていうところはあるかもしれないんですけど、何か分かる範囲でお知らせいただきたいと思います。（「DCか」と呼ぶ者あり）はい。

○委員長（竹中 理） 久田課長。

○都市整備課長（久田 渉） 直接今、豊岡市のほうがDCに何らかの形でということではないんですけども、これは今年の7月から9月、3か月間でJRの各6社、と今年は兵庫県とが一緒になってイベントをやっていくというものです。

今のところ、豊岡のほうとして直接いうことはないんですけども、観光利用というのもそうなんですけども、今年、新年度の予算で、JRのことで豊岡市として何をしたいかということの説明をさせていただきますと、ふだん、竹野の、特に城崎温泉駅から竹野の間が、以西の関係が問題だと思えますんで、今考えておるところでは、地元の竹野観光協会のほうに委託させてもらって、そこで地元のほうの関係と、それに専門職大学の学生と一緒にディスカッションというか、そういう場をつくって行って、それを春から、月に1回か2か月に1回になるか分からないんですけど、定期的にディスカッションを開催して、そのディスカッションしてるもの自体をメディアのほうにも取り上げてもらって、その出た策を夏と秋、大体1回ずつぐらいをめぐりに実施予定です。その時期をちょうどDCと合わせたらいいかなというようなところを今考えておるところです。以上です。

○委員長（竹中 理） 清水委員。

○委員（清水 寛） やはりJRでの利用促進っていう形で誘客をすると、いわゆる二次交通でいうところが必ず出てくるんですけども、そういう意味で特に竹野と言われたところでいえば、しっかりとその接続の部分、バス交通であったり、その辺まで考えていく必要っていうのが、同じ公共交通としては地域の端々まで運ぶという動きが必要なと思うんですけども、今までなかなかその辺の連動ができてないというのが現実あったと思うんです。なので、改めてその辺の取組というのをしっかりしてい

く必要があるかなと思います。その点についていかがお考えですか。

○委員長（竹中 理） 久田課長。

○都市整備課長（久田 渉） 今、言われますように、当然二次交通としてバスの接続もということで考えていますけど、まだ実際動きがないです。

ただ、竹野南の話がありまして、どうしても竹野南の方はどちらかといいますと豊岡市のほうに乗り入れしたい。それから、中竹野と海岸のほうの方は直接竹野駅のほうに行きたいということがあります。今は竹野南だけの話で、先ほども言いました、今年度めどに新しいモードを確立していきたいというのはあるんですけども、我々としましては行く行くもう竹野全体、南も中も竹野海岸も全てでトータル的に考えていて、それぞれで、日高で去年やりましたあり方懇話会といいますか、ああいうのを竹野全体でやっていって、取っかかりは南だけでいきますけども、最終的には全域でちょっと考えていって、そのときに委員言われますような、JRのこともですけど、住民の方はまだバスのことについてどうこうという意識がないものですから、そういったことを一個ずつ、南でやって、あとは全体でっていうのが今のところ考えております。

○委員長（竹中 理） 清水委員。

○委員（清水 寛） これは質問ではないんですけども、やはりバスの利用者っていうのは、先ほどDCとかでいう観光利用っていう目線と、生活で利用していくっていうのではおのずと使い方が変わってくるのかなと思います。それはいわゆる停留所一つ取っても多分いろいろと考える必要があるのかなと思いますので、やはりその辺の目線を切り分けて、しっかりと使う側により使いやすい形っていうのを検討できるように取り組んでいただきたいと思います。以上です。

○委員長（竹中 理） ちょっといいですか。関連で、いいですか。

さっきの関連のことなんですけど、1月でしたけど、1月の27に大雪警報が出て、例の城崎まで電車が来なかったっていう状況、先ほど言われたよう

な感じで、県のほうには、何でしたっけ、兵庫県産業労働部観光局長のほうからJRのほうにそういった、地元としては非常に、特に城崎とかは、観光客が急遽電車が来ないということで非常に困られたと。清水委員も言われたように、例えば代替で何かバス出すとかということもせずにされたということで、非常にちょっと大変苦労されたっていうふうに聞いたんですけど、その辺は、市としては何か動かれたりとかされましたか。

久田課長。

○都市整備課長（久田 渉） 直接都市整備部のほうにはなかったんですけども、環境経済部のほうに地元からも声がかかって、要望をJRの兵庫支社に出すから市のほうもそれに同調してくれということで、環境経済部のほうと地元の城崎の観光協会のほうが要望を兵庫支社に出されました。うちのほうでは特に、都市整備部として動きはないです。以上です。

○委員長（竹中 理） 了解です。了解しました。

じゃあ、義本委員。

○委員（義本みどり） ここでお話ししていいことかどうか分からないんですけど、JR関連なんですけれども、中学3年生の進行性の難病を持っている子供さんの保護者の方が、来年子供が和田山の特別支援学校、出石と見学に行つて、どうしても和田山の特別支援学校に行きたいんだと。進行性の難病なんで、この子には今が、今をかなえてやりたいと、また体が動かなくなったりすることもあるので、今この子がしたいことをかなえてやりたいということで、解決したようなんですけども、お母さんが福祉のほうにご相談をされて、なかなか最初はそんな難しいですよと、和田山、エレベーターがないんでしたよね、渡つて改札出るのに、ないので難しい、1人のためにそんな難しいんじゃないですかというお話だったんですが、お母さんの熱意で、和田山特別支援学校の先生も動いてくださつて、JRにかなり働きかけをしてくださいまして、JRが検討をした結果、豊岡は乗れますね。1人で乗れるんですけど、和田山は、何ていうんだろう、高架上がら

なくて、こっちの改札出なくて、特別な出口が何かあるんですかね、外に。ある、私もよく分からない、あるらしくて、今回のダイヤ改編で、朝7時の電車をどうもそのホームに止まるようにいろいろ考えて配慮してくれて、そこから外に出して、そこから特別支援学校のお迎えのバスに乗せてくださるような方向で解決ができたようなんです。

で、お母さんからお礼を言いたいんだけど、どこに誰にお礼を言っているか分からないというようにお話を先日ちらっと聞きましたので、ちょっとここでご報告したほうが……。はい、何か聞いておられたら。

○委員長（竹中 理） 久田課長。

○都市整備課長（久田 渉） 和田山のほうの管轄も豊岡の駅長さんのほうになると思います。私のほうで一度、豊岡の中奥駅長さんのほうに確認してみても、ちょっとそういうことを尋ねて、どうさせていただきます。

○委員長（竹中 理） 義本委員。

○委員（義本みどり） お母さんが大変感謝されていたのでということと、本来お母さんは福祉のほうに相談したんですが、ひょっとしたらこちらと情報共有とかして進めてもらったりとか、今ふと思ったんですけど、何かそういったことをしたほうがよかったのかな、どうだったのかなと、進め方として、どうかなと思ったんですが、どうでしょうか。

○委員長（竹中 理） 久田課長。

○都市整備課長（久田 渉） 1回確認させてもらって、委員さんのほうに連絡を取らせていただくということでもよろしいでしょうか。

○委員長（竹中 理） 義本委員。

○委員（義本みどり） また、福祉の障害者、あそこかな、障害者総合相談、保健師さんが今年からやるところ、基幹相談、基幹相談が窓口になったような話をちらっと聞いたんで、基幹相談、松田保健師が窓口になってるところ、1階の奥のところですね。去年まで社協さんに委託しとって、今年からちょっと社協さんがいっぱい返ってきたところが、あっ、基幹相談だったかな、障害者の。そこが窓口

になったんだったらちっとお母さんから聞いたんですけれども、ひょっとしたらそこそこちらがつながつて動いていただいたりするような方向性だったらよかったのかなと今ちょっと話を聞きながらふと思ったんですが、またご確認してみてください、お願いします。

○委員長（竹中 理） いいですか、答弁。

○委員（義本みどり） はい。

○委員長（竹中 理） ほかに。

前田委員。

○委員（前田 敦司） 説明もろもろありがとうございます。道路のほうも順調に進んでいるとかっていうところもありがたいなど、思って聞かせていただいています。

その中で、1点、不勉強なのでちょっと確認の意味で教えていただきたいんですが、コウノトリ但馬空港の件です。利用促進としてはいろんな事業をやっていたらいいと思いますし、実際数も増えてきているのかなと。このグラフで見ると感じるんですけど、話題としてちょこちょこ、気になる話題なんですけど、利用者が少ないと空港がなくなるみたいな話を聞いたりするんですが、具体的に、例えばこれぐらい利用率が下がると必要なか不要なのかという議論が進んでしまうとか、そういった数字みたいなものはご存じですか。

○委員長（竹中 理） 久田課長。

○都市整備課長（久田 渉） 具体的な数字はございません。去年まで空港のあり方懇話会という検討会がありまして、今こういったコロナの継続して影響があるという中で、中断といいますか、去年の春まとめられたのが中間報告という形で取りまとめられました。その中の内容としましては、まず第一に、もう一回コロナ前の状態に利用者を増やすというところで今やっていますんで、この数字が、例えば利用率が今44パーと言っていますけど、これが30切ったらとか、そういったことは今のところ全くない状態です。以上です。

○委員長（竹中 理） 前田委員。

○委員（前田 敦司） ありがとうございます。

そしたら、具体的なところはないということですね。理解しました。

ただ、個人的にはといたしますか、但馬空港、やっぱり便利なものだなと思うので、ちょっと安心したいといたしますか、しっかりと利用率を上げるための取組していただきたいと思うんですけど、都市整備だけではなくて、例えば大交流、現時点でいうと大交流だったりとか、観光のところ何かと連携しながら、使いやすいような、こういうのが必要だよっていうふうな意見交換みたいなのは市役所内でも行われてたりもしますか。

○委員長（竹中 理） 久田課長。

○都市整備課長（久田 渉） 具体的に定期的には開催しておりませんが、イベントとかいうときには、推進協議会というのがあります、4階のほうに。そっこのほうとは相談して、大交流ともイベントのあるときは確認させてもらってますけども、定期的に月に1回とか2か月といったようなことは開催していない状況です。以上です。

○委員長（竹中 理） 前田委員。

○委員（前田 敦司） どういう方が利用されるのか、ビジネスマンの方が利用されてたりとか、旅行で来られる方が利用されてたりとかっていうところは想像されるんですけど、学生の子たちはまた別の話として、そういったビジネスマンでも旅行者でも、何を使って移動するのかっていうところで、変な話が、所得が変わってくるといいますか、そういうところもあるのかなと思っていて、例えば車で高速道路も使わずに移動するっていう、僕も学生時代は過ごしていて、それが高速道路使うようになったりとか、鈍行列車を使うのか、特急を使うのか、いやいや、もう飛行機使ってぴゅんと行くっていう人がどれだけこの地域に来てもらえるのかというところは、この豊岡市に落ちるお金も変わってくるのかなというところもあるので、ぜひその辺もしっかり協議した上で進めていただけたらと思います。これは質問ではありません。以上です。

○委員長（竹中 理） ほかにありませんか。
岡本委員。

○委員（岡本 昭治） すみません、ちょっと確認だけです。

J R ローカル線の維持議員連盟、県議9名というような、当然豊岡、養父、朝来、そういう南のほうが入ってるんですけど、どこの範囲の議員さんということ、その情報だけです。

○委員長（竹中 理） 久田課長。

○都市整備課長（久田 渉） まずは、9名の方は、メインとなられとる方が西脇、多可郡の代表の内藤議員さん、4路線ある中の今回議員連盟さんが意識されてたっていうのを聞いた内容としましては、加古川線の利用率がたしか乗車密度が200人、300人ぐらい、一番危機感を持たれてまして、そこの西脇市長もそれには同調されたということで、メインは加古川線代表です。

ちなみに、9名の方、ちょっとだけ言わせてもらおうと、自民党の関係ではうち豊岡市の門間議員、それから赤穂郡、赤穂市のほうで長岡県会議員と養父市と朝来市の藤田議員、それからたつの市のところで松井議員が自民党の関係で、次に、自民党兵庫のほうで、丹波市の石川議員、美方郡の橘議員、それから先ほど言いました西脇市の代表で内藤議員と、それからたつの市のほうで山口議員と。今、8名おられます。ひょうご県民連合というところの神崎郡の代表で上野議員で、一番の会長さんが石川議員です。内藤議員は事務局長ということですけども、発起人としては内藤議員がというような状況です。以上です。

○委員（岡本 昭治） ありがとうございます。

○委員長（竹中 理） じゃあ、須山委員。

○委員（須山 泰一） よろしくお願ひします。

1つ目、ちょっとお聞きしたいのは、江原駅がたしか無人化が2月か3月かからでしたね。江原駅、それで豊岡の管轄、豊岡、城崎、竹野ですか、そのそれぞれのそういう人員の状況を教えていただきたい。

僕、国府育ちなんで無人駅だったんですけど、江原はさっきの話だったらエレベーターもある駅ですけど、人が、駅員さんおらんようになるということ

で不便になってないか、一つ。

それから、日高のことでいえば、あり方勉強会で
すか、去年4回されたいう、僕も後で知って、今年
は竹野でされるということですけど、まあまあ日高も
今年はないんでしょうか、そこも教えていただきたい。

それから、ノーマイカーデーが1, 400枚で、
さっき職員さんがそのうち240人使われたとい
う意味だったんでしょうか。それもちよっと教えて
いただきたい。

それから、竹野南のことでしたけど、10月から
2月で延べ400人ということでしたけど、これは増
えていってますかどうか、それもお聞きしたい。

それから……。

○委員長（竹中 理） うん、ちょっと待って、取
りあえず。

○委員（須山 泰一） あっ、はい、すみません。

○委員長（竹中 理） 取りあえず。

じゃ、久田課長。

○都市整備課長（久田 渉） まず、駅の状況です
けども、みどりの券売機プラスが、豊岡は変わって
ないです。江原駅は3月の5日に設置をしまして、
6日の日から無人になっています。八鹿駅は2月の
15日で、16日から、ただ八鹿駅は無人になっ
てるかどうかちょっと確認できていません。駅の関係
はそうです。

それから、日高のあり方検討会、勉強会について
は、竹野は今年からすぐ始めるというのではなく、
取りあえず竹野南とやっていって、その引き続きで、
これが今年度になるかは別ですけど、引き続き竹野
地域全体での勉強会をするということでは今のと
ころまだないです。南のほうとやっていきます。

それから、ノーマイカーデーの1, 400枚は、
市の職員が移動したのが240人ほどです。ノーマ
イカーデー500円を配ったのは、市内の対象市民
が対象になって1, 400枚売れたということなん
です。

○委員（須山 泰一） 竹野南の延べ400人。

○都市整備課長（久田 渉） すみません。400

人も、特にこの1月、2月、徐々に増えてます。最
初は月40人ぐらいだったんですけども、今は85
人とか80人台になっておるような状況で、トータ
ルが400人ということです。以上です。

○委員長（竹中 理） 須山委員。

○委員（須山 泰一） ありがとうございます。

そうですね、取りあえずほかの聞きたいことから
ですけど、日高の福祉モビリティですか、あれは
タクシー業者さんにちょっと当たってみるとかい
う話があったと思いますけど、それはどうなったかお
聞きします。

それから、もう一つは、イナカーの意見交換会、
僕も三方と八代がセットになった意見交換会行か
せてもらいました。久田課長もおられました。6地
域で5回ということは、ひょっとして日高だけ八代
と三方がセットでされたということでしょうか。

それから、アンケートですけど、どのぐらいあれ
回収されたのか、12月一月だけって聞いたような
気がしたんですけど。その辺りお聞きします。

○委員長（竹中 理） 久田課長。

○都市整備課長（久田 渉） 福祉モビリティの
関係は、実は年内ずっと当たってたんですけど、前
回から報告はしてもらってるように事業者さん、1
事業者さんしか参画していただけて、年明けて
実は2月から全但タクシーさんのほうに契約をし
まして、マッチングできるように、福祉事業者さん
とタクシー、どちらも選べるようなことをしてるん
ですけども、今のところまだ実績がない状況です。
いわゆる利用者がまだない、今のところは、1か月
ちょっとたってますけどというような状況です。

それから、イナカーの意見交換会は、どことも皆
さんそろって同じ回数を開催します、4回。

○委員（須山 泰一） 4回。

○都市整備課長（久田 渉） はい。

三方と八代は別個別個で開催しています。清滝と、
ちょっと待ってくださいよ、全部で4回勉強会して、
5回目をして、整理をしています、だから。それぞれ
どっかの地区が、例えば3回でこっちが4回じゃな
くて、同じ日に皆さん集まっていたら、テーブル

ルで分かれてしまいますので、別々、三方と八代は一緒じゃないです。

すみません、それから、そのイナカーの意見交換会をしたときのアンケートの関係ですけれども、回収できたのは30弱ありました。感想や意見なんで、ちなみにですけれども、大きくは3つありまして、ありがとうございますということと、もう一つはダイヤの便、ダイヤ改正をもうちょっと便利なようにしてもらえないかっていうことと、一番切実なのはとにかくやめないでほしい、このまま引き続きしてほしい、この3つが主な意見の内容でした。

○委員長（竹中 理） 須山委員。

○委員（須山 泰一） ありがとうございます。

ちょっと今のあり方勉強会が地区ごとにテーブルでされたんじゃないかと。イナカーの説明会はイナカーが走ってる地域だけのやつで、6路線で運行で、運行計画などに関わる意見交換会を5回開催って、これ9ページに書いてあるんでね。6運行、6路線だったら、路線ごとにやったら6回開催だけど、5回になってるというのは、三方、日高の2地域を一緒にまとめてやったからでしょうか、だと思っんですけど。

○委員長（竹中 理） 久田課長。

○都市整備課長（久田 渉） すいません。日高のあり方勉強会と勘違いしていました。そのとおりでございます。その日高のあり方勉強会とイナカーのダイヤの意見交換会とまた別で、今委員言われましたように、三方と八代が一つになってるんで、6路線で5回開催しました。それを1月の末から2月の頭に5会場に分けて開催をしております。以上です。

○委員（須山 泰一） 何度もすいませんが。

○委員長（竹中 理） 須山委員。

○委員（須山 泰一） そうですね、福祉モビリティの全但タクシーとあそこの事業者さん1つ、民間の事業者さんがどのように今後なっとして、利用者からしたらタクシー使ってもタクシー料金が取られるんでは、使おうという気にならない。

どれぐらいの額で使えるんか、そこら辺が知りたいですし、あと、今のイナカーの説明会ですけど、

いろんな工夫が必要だと思います。だけど、去年までは日高の三方と八代は別々でイナカーの路線の説明会はされてました。だけど、今回は日高コミュニティセンターで、町なかまで八代の人でも三方の人でも出てきて一緒に、時間ずらしてやるっていう形だったんですけど、これはまた検討していただいて、どうなんでしょう、三方のほうは、僕、両方参加しましたけど、ふだんより、16、村があるけど、半分ぐらいしか来てなかったように僕は見えただんですけど、あれ三方のコミュニティでやったらほとんどの村から誰か代表が出てきてたように僕は思うんですけど、八代は皆さん出てこられてたように思いますけど。

それと、アンケートですけど、全部で30弱か、中身はもう、ありがとうございます、ダイヤ改正、やめないでほしいって、そういう中身だったと、全部で30弱。三方はゼロだったとかいって報告受けましたけど、確かに、貼り紙があっただけです、アンケートご協力お願いしますの貼り紙が車内に一月あっただけなんでね。これはなかなか、前、ここではアンケート協力をと、バスの車掌さんが協力を促してるということだったけど、せめてそれぐらいとなかなか気づかないんじゃないかと僕は感じました。

以上ですけども、その福祉モビリティのことですとか、分かる範囲で教えていただければ。

○委員長（竹中 理） 久田課長。

○都市整備課長（久田 渉） 福祉モビリティのタクシーの関係ですけれども、料金は普通の福祉事業者の車に乗ると1回500円、タクシーは実費になってます。実費なんですけれども、その移動する範囲が、日高の今の、例えば駅中心から森山とか三方、距離的には、お金が幾らというのは明言できないんですけども、2,000円も3,000円もなるようなことはない、1,000円までかなというのは思ってますけど、これも今、実験の一つですので、これでもし今委員言われましたようにやはり料金的にタクシーだったら高いから乗らない、乗らないというのも一つのもうデータとして整理させてほ

しいということなんで、実費で考えてますんで、詳しいタクシーの料金は分かりません。以上です。

○委員長（竹中 理） いいですか。

○委員（須山 泰一） はい。

○委員長（竹中 理） ほかにないようでしたら、以上で。

小森委員。

○委員（小森 弘詞） 道路の関係でちょっと教えてほしいんですけども、豊岡北ジャンクションに向けての工事着工に目指すというところで、戸牧から岩井方面、地権者との話し合いされてるということですが、今の状況で反対ですとか、ネガティブな反応をされてる方がおられるかどうかを知っておられたらちょっと教えてください。

○委員長（竹中 理） 澤田部長。

○都市整備部長（澤田 秀夫） 今、3地区回ってますけども、そういった反対というようなご意見は聞いておらないです。

○委員（小森 弘詞） よかったです。ありがとうございます。

○委員長（竹中 理） いいですか。

○委員（須山 泰一） もう一つ。

○委員長（竹中 理） どうぞ。

○委員（須山 泰一） ごめんなさい、すみません、さっき1つ忘れてました。

複数の方から、出石の方から、健康指導でウェルストークに市から行くようにはがきが来るけど、足がないっていう言い方を、何とか考えてくれというような話を聞くんです。出石からウェルストーク行こうと思ったら、立野のバス停なんですかね、コバスだったらもっと近くにバス停があるんですかね。そういう声はないですか。ここの課じゃないかもしれないですけどね。

○委員長（竹中 理） 久田課長。

○都市整備課長（久田 渉） 今、うちの都市整備のほうでは具体には聞いてないです。以上です。

○委員（須山 泰一） 分かりました。ありがとうございます、すみません。

○委員長（竹中 理） ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（竹中 理） ないようでしたら、以上で委員会所管事項の現状については終わりますが、この際、当局から何かご発言がありますか。よろしいでしょうか。

それでは、ここで暫時休憩をします。

午前10時23分休憩

午前10時25分再開

○委員長（竹中 理） 委員会を再開します。当局の職員の方は退席していただいて結構です。お疲れ様でした。

それでは、引き続き、続けていきます。

次に、委員会の運営方針についてです。

前回までの委員会で決定しました委員会重点調査事項をSide Booksの本日のフォルダーの中に、次第の資料4ページに配信をしております。前回修正の意見をいただきましたので、ご確認をしていただきたいと思います。

重点調査事項について何かご意見はございますでしょうか。

3と4を2つに分けてさせていただいて、これでもよろしいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（竹中 理） ご意見がないということでしたら、このようにしたいと思いますので、よろしくをお願いします。

それでは、その他についてです。この際、何か発言はございますか。

清水委員、どうぞ。

○委員（清水 寛） 重点調査事項の中に入ってるんですけども、鉄道もバスも利用促進に関する内容という内容があって、今所管課が都市整備部だけっていう意味では、利用促進の内容が、例えばソフトな話になってくるとちょっとこう部署が足りないのかなど。先ほどドスティーションキャンペーンもお聞きしたんですけども、足りてないんじゃないかっていう気もするんですけども、その点どうですか。

○委員長（竹中 理） 何かご意見ありますか。

○委員（清水 寛） まあ、広げると多分無限に広がりますが、この部分は。

○委員長（竹中 理） 暫時休憩します。

午前10時28分休憩

午前10時34分再開

○委員長（竹中 理） じゃあ、委員会を再開いたします。

先ほど清水委員のほうからもいろいろご提案もあつたりとかいたしまして、次回、4月はまた新しい事務概要ということで、市役所のほうも変わってきて、メンバーも替わるとお思いますので、そのときにまたしっかりと調整して、また内容を絞ってやっていきたいというふうに思いますので、よろしく。それで、そういうふうな感じで進めていかせていただいでよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（竹中 理） じゃあ、そういうふうにさせていただきますというふうに思います。

それでは、あと、そのほか何もないようでしたら……。ありますか。ありますか、ほかに。特には。

○委員（岡本 昭治） 特別委員会の、それはまた管外視察って、一応7月でしたですかね。7月でしたか。

○委員長（竹中 理） あっ、7月ぐらいですね、はい。それはまた新しい、4月になってからのことで。

じゃあ、以上をもちまして委員会を閉会をいたします。お疲れさまでした。

午前10時35分閉会
